

被災地に希望をひろげよう

青年ボランティア ニュース

第6号 2011/5/3

民青同盟・青年ボラ
ンティアセンター

TEL0191-31-8036

多彩な顔ぶれ 100人のボランティア

今日は約100人のボランティアが行動します。「何かできることがあれば」と集まった大勢のボランティアらが、多彩な力を発揮しています。

お年寄りの入浴介助

「おばあちゃんをお風呂に入れたい」。ある民宿のオーナーから依頼され、介護職の経験がある青年2人が訪ねました。お世話になっていたケアマネージャー2人が津波で亡くなり、家族も営業再開にむけて忙しくなり、困っていました。さっそくお風呂に入れ、お世話をしました。家族からさらに、おばあちゃんがうつ病で精神的にも参っているので話し相手になってほしいとの依頼も。「震災弱者」を何とかしたい」と応えることにしています。

美容師のカットですっきり

避難所の小学校で、美容師4人が散髪のボランティアをしました。女性の要望にこたえてカットやブローをていねいにやり、子どもたちの髪も切りました。はじめは遠慮していた被災者の方も、さっぱりした表情をみて次々にあつまり、20人以上が利用しました。ある女の子は、みつあみをキレイにセットしてもらい、うれしそうでした。

バス移動や自炊もみんな

毎日の移動にはマイクロバスなどを使い、昨夜から36人乗りバスも追加しました。被災地の交通渋滞を少しでも緩和するためです。連日運転しているのも、免許がある青年ボランティアです。

100人前後の食事も、みんなで作ります。昨日の朝は、元調理師と栄養士の青年らが相談しあってつくっていました。昨夜は「私、毎日100食つくっているんです」という強力な助っ人もあらわれました。

教師が子どもたちの思いつなく

小学校教師しているボランティアの方は、子どもたちが集めた新品の文房具を手渡しました。昨年担任していた4年生の子らが、春休みに自分たちであつめてもってきたものです。子どもらから預かったメッセージも、模造紙にはって届けることに。

チェーンソーで廃材を裁断

「店に突っ込んできた巨大な流木を撤去してほしい」。この依頼にこたえようと、今朝茨城から、チェーンソーを使える青年が駆けつけました。これから現場に向かいます。

被災者と心かよわせ

昨夜のミーティングで炊事や片付けなどで被災者との交流が生きいき出されました。

●「この海から昇る太陽は本当にキレイなんだよ」とお国自慢をするおばあちゃん。ふと、遠くを見ながら「この海っこが、人っこも家っこも、ぜんぶ流してしまった」と話しました。

●片付け先の奥さんは、お昼休みに当時の話をしてくれました。数日間小さなおにぎりでも過ごしたと、ギリギリで津波から逃れたこと…。情景がうかび、胸にくるものがありました。

●避難所の小学校では、子どもたちと鬼ごっこ。着ていたつなぎへ、子どもらが次々に落書きも。「パワーに圧倒され、こっちが元気をもらった」と話していました。